

2021 年 9 月 16 日
せとうちファンづくり協定
西日本旅客鉄道株式会社
尾道市
株式会社おてつたび
三原農業協同組合

せとうちファンづくりプロジェクト × おてつたび 尾道市瀬戸田でおてつたびと JA、ゲストハウスの 3 者連携による 農業と観光の地域課題解消モデルに取り組みます

西日本旅客鉄道株式会社（以下、「JR 西日本」という。）と瀬戸内の中心に位置する「竹原市、三原市、尾道市」の 3 市が、地域外からの多様なファンづくりと、様々な形で地域との関係性を強化する取り組みを通じ、地域の課題解決につなげる「せとうちファンづくりプロジェクト」は、株式会社おてつたび（以下、おてつたび）と連携し、おてつたびのプラットフォームを活用した人手不足に悩む農家と地域・農業に関心のある若者とをマッチングさせることで農家の担い手不足の解消に努めております。

この度、せとうちファンづくりプロジェクトでは、尾道市瀬戸田町にておてつたびと三原農業協同組合（以下、JA 三原）柑橘事業本部、地域のゲストハウスの 3 者を連携させ、尾道市瀬戸田地域果樹振興対策会議（広島県と瀬戸田地域関係機関で構成）の協力のもと、農繁期の人手不足と観光の閑散期という農業と観光双方の地域課題を解決するモデルに取り組みます。

1 開催概要

企画名：尾道市瀬戸田で「瀬戸田柑橘」収穫等のお手伝い
実施期間：11 月 27 日（土）～12 月 15 日（水）
募集開始：10 月 15 日（金）

2 モデル構築の背景

- 瀬戸田地域は「せとだエコレモン」を始め柑橘を栽培する農家が多く、11 月～2 月の農繁期の人手不足が課題となっていました。一方、瀬戸田の農家の多くは、最盛期、必要な人手にばらつきがあり、家族以外の人材を活用するには集約してボリュームを作る必要がありました。
- 瀬戸田地域の果樹振興を考えると、柑橘農家の担い手のために新しい取り組みにチャレンジしていく必要がありました。
- 11 月～2 月は観光の閑散期に当たることから、ゲストハウスは繁忙期である夏場の収益で閑散期を耐えている現状があり、閑散期の宿泊需要創出は、ゲストハウスの収益拡大のみならず、地域にとっても交流及び経済の活性化にも好影響をもたらします。
- おてつたびを利用する参加者の多くは、地域や農業に関心があり、長期間地域に滞在して地域と関係性を構築したいというニーズがあります。また、終了後のアンケートでは 9 割以上が「地域にまた訪れたい」と答え、移住・定住した事例もあり関係人口創出を強みとしております。

3 モデルの特徴

- 今回、JA 三原柑橘事業本部が農繁期の人手不足に悩む農家の取りまとめを行い、2 週間程度の募集期間を用意しております。参加者にとっては、長期間の滞在を通して、より深く地域と交流し、関係を構築できます。また、地域にとっても深く地域を知ってもらうことで、何回もリピートしてくれたり、地域産品を購入したりしてくれるファンを獲得することができます。
- おてつたびの期間中の滞在場所をゲストハウスに設定し、宿泊単価は連泊による割引をしております。参加者にとっては、宿泊費を抑えて滞在することができ、地域と近く、交流できるゲストハウスを起点とすることにより深く地域を知ることができます。また、ゲストハウスにとっても、閑散期に連泊する宿泊客を確保することができるのと同時に、将来のリピート利用に繋がる顧客を獲得することができます。

4 今後の展開

せとうちファンづくりプロジェクトでは、上記モデルを竹原市、三原市、尾道市の3市の他のエリアにも水平展開し、おてつたびを通じた農業の担い手不足の解消をきっかけとした、せとうち地域のファンづくりの取り組みを進め、農繁期の人手不足に対してお手伝いで人が訪れることが常態化していくことを目指します。

※おてつたびとは

「おてつたび」は、日本各地の素敵な地域へ行く人が増えて欲しいという思いから生まれたサービスであり、地域の短期的・季節的な人手不足を中心とした困りごとをお手伝いする事により、報酬を得ながら旅行をする事が可能なため、行きたかった地域に行く際、ボトルネックになりがちな旅費を軽減する事が可能。現在、応募倍率は3倍～5倍と非常に注目を集めております。また、お手伝いを通じて地域の方と関係性ができ再び同じ地域へ訪れる参加者も増えており、関係人口拡大の一助を担っています。

5 連携事業者概要

(1) 株式会社おてつたび

会社名 : 株式会社おてつたび
代表者 : 代表取締役 CEO 永岡里菜
所在地 : 〒151-0053 東京都渋谷区代々木3丁目31-12
設立 : 2018年7月
URL : <https://otetsutabi.com/>

(2) 三原農業協同組合

組織名 : 三原農業協同組合
代表者 : 代表理事組合長 田中義彦
所在地 : 〒723-0052 広島県三原市皆実四丁目7番28号
設立 : 1993年4月
URL : <https://www.jamihara.or.jp/>

せとうちファンづくりプロジェクトについて

1 主旨

瀬戸内の中心に位置する「竹原市、三原市、尾道市」の3市が、JR 西日本と連携（令和 3 年 3 月 23 日協定締結）し、せとうちの資源・魅力、課題を活かし、地域外からの多様なファンづくり（＝関係人口創出）と、様々な形で地域との関係性を強化する取り組みにより、地域の課題解決につなげることをめざします。

※連携して取り組む地域課題解決とは

各々では解決が難しい課題や効果が小さい取組、持続性に欠ける取組などに対して、これまで以上に垣根を越えた連携を図っていくものです。

2 3市とJR西日本の役割

（1）3市

関係人口への期待や必要性、関係人口が地域にもたらすメリット等を地域に知らせる。

具体的なつながりをつくり、外部人材と地域をつなげ関係人口を拡大する。

（2）JR西日本

地域と関係人口のつながりを創出するため、広域的な範囲で人や事業者を、3市をはじめとした地域へつなげ、広げる。

3 事業プロセスデザイン

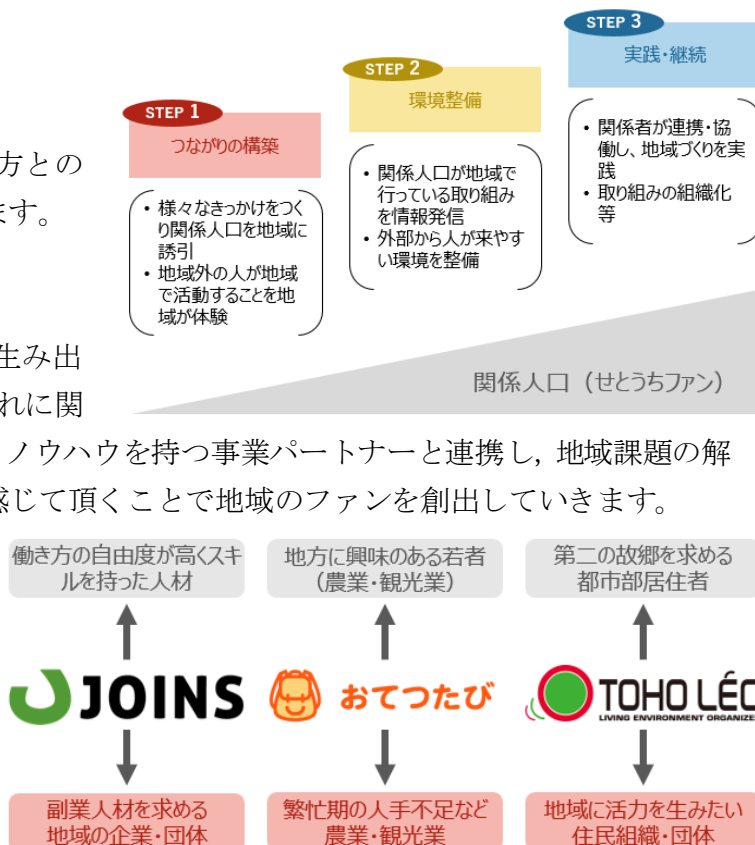
段階に応じた取組により、地域外の方との継続的な関わりを持つ機会を創出します。

4 関係人口を創出する仕組み

地域外の方との継続的な関わりを生み出す仕組みとして、様々な地域課題とそれに関

心を持つターゲットをマッチングするノウハウを持つ事業パートナーと連携し、地域課題の解決を通じ、その地域の魅力に触れて感じて頂くことで地域のファンを創出していきます。

まずは、令和2年度の三原市での関係人口創出事業で連携した3社と実践し、仕組みの充実と拡大を図っていきます。



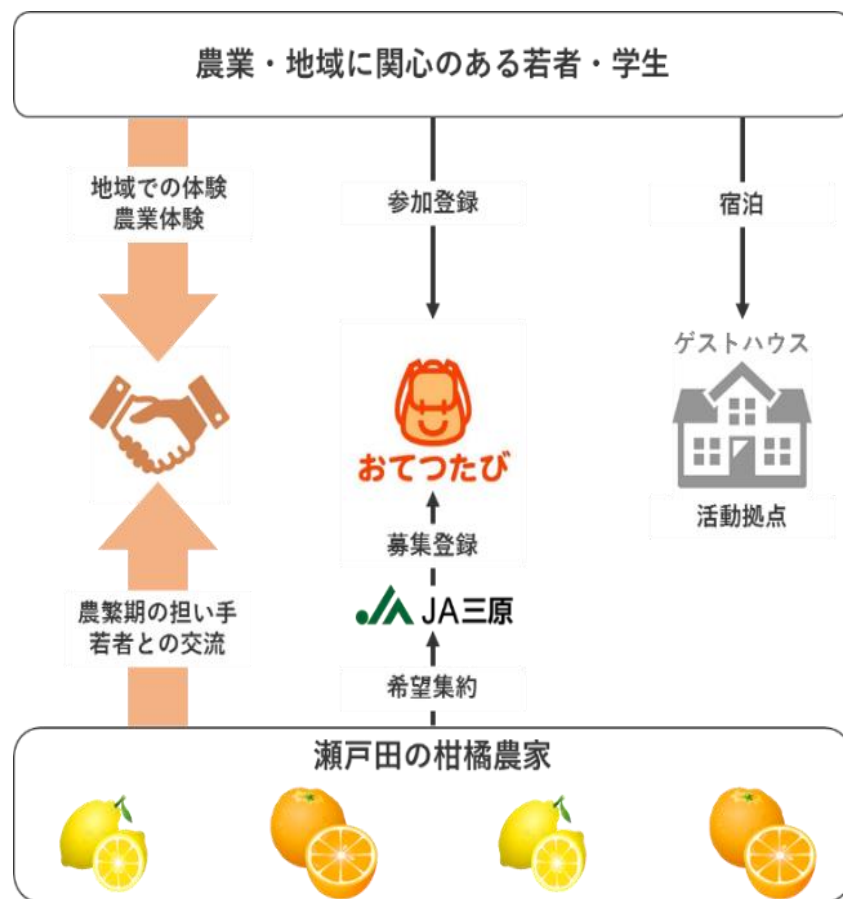
5 今後の展開

上記の取り組みを竹原市と尾道市にも展開し、地域の特性に応じた様々

な課題を3市とJR西日本に加え、市民や様々な団体・企業などと連携して課題解決を図り、せとうちエリアの魅力を感じて頂くことで地域のファンづくりを進め、拡大していきます。

また、将来的には竹原市、三原市、尾道市の3市だけではなく、広域的な範囲でこの取組の輪をさらに広げていきたいと考えております。

○尾道市瀬戸田での事業スキーム



事業概要

農繁期の人手不足に悩む瀬戸田の柑橘農家と地域・農業に関心ある若者をおてつたびのプラットフォームを活用し、マッチング

事業のポイント

- ・農繁期の柑橘農家と観光の閑散期にあるゲストハウスをマッチング
- ・地域の交流拠点であるゲストハウスへの滞在を通じ、より深く地域を体験
- ・JA三原が集約することで、規模等に関わらず幅広い農家が参加可能

おてつたび利用者のメリット

- ・JA三原が農家の作業ニーズを集約し、一定の滞在期間を確保
- ・観光閑散期のゲストハウスを活用し、旅費の負担を抑えた滞在・交流が可能
⇒ 長期滞在によって地域・農業と深く関わることができる

ゲストハウスのメリット

- ・観光閑散期におてつたびによる連泊需要の取り込み
- ・将来のリピー特利用が見込める優良顧客の獲得

瀬戸田（地域）のメリット

- ・おてつたび利用者が長期滞在することで、瀬戸田のファンを獲得できる
- ・ファンとなったおてつたび利用者が繰り返し訪れることで地域活性化を図れる